

令和7年度 第1回 東海村スポーツ推進計画推進委員会会議録

1	開催日時	令和7年6月20日(金) 18時30分から20時00分まで
2	場所	東海村歴史と未来の交流館 活動室2
3	出席者 (敬称略)	<p><委員> 松坂晃, 皆神美由紀, 塚原美光, 黒羽根史朗, 小泉親彦, 富岡孝明, 横須賀哲也, 久保田泰世, 石丸美代子, 海老原強, 菅谷恵美, 本多早紀, 竹下浩一</p> <p><事務局> 小川直也(教育部長), 深見孝志(生涯学習課長), 豊嶋潤(生涯学習課課長補佐), 川崎彰利(生涯学習課主任), 木名瀬裕介(生涯学習課主事), 佐藤大樹(東海村文化・スポーツ振興財団スポーツ振興係係長)</p>
4	欠席者 (敬称略)	高橋和将, 川野翔大
5	公開又は 非公開の別	公開
6	非公開の理由	—
7	協議・説明事項	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期計画に基づく令和7年度の取り組みについて(協議) ・第2期計画の推進に向けた関係団体との意見交換について(協議)
8	配布資料	資料1 第2期東海村スポーツ推進計画 [R7進捗管理シート] 資料2 第2期東海村スポーツ推進計画の推進に向けた関係団体との意見交換について(案) 資料3 「ホッケーのまち TOKAI」を推進しています!(チラシ) 参考1 水戸ホーリーホックパブリックビューイング(チラシ) 参考2 ニュースポーツだョ!全員集合!!+プラス(チラシ) 参考3 第5回スポーツフェスタ TOKAI2025 実施要項(案) 参考4 熱中症対策アンバサダー講座(チラシ)
9	発言内容	(1) 第2期計画に基づく令和7年度の取り組みについて ○ 配付資料の説明…資料1 委員) 基本目標3「運動・スポーツを通じたまちの魅力の発信」

	<p>の中で、茨城県公式健康推進アプリ「元気アップ！りいばらき」への登録とあるが、このアプリはどのようなものなのか。</p> <p>事務局) アプリに登録された健康づくりの活動に参加することでポイントを獲得し、貯めたポイントで景品と交換できる事業。例えばウォーキングイベントや健診受診もポイントになる。</p> <p>委員) 健康増進課で活用している。野菜摂取レベル測定会で30P, すこやかウォーキングで30Pなど。村内事業所では、にじのなかやヨークベニマル等でも登録しており、村民の健康活動を促進するために村のイベントでも積極的に登録すべきである。</p> <p>委員) スポーツ推進委員で月1回開催している全員集合は対象になるのか。</p> <p>委員) ニュースポーツも対象になる。アプリに活動を登録し、会場でQRコードを読み取れるようにしておけばできる。</p> <p>委員) まずは全員集合でやってみるのはいかがでしょうか。今まで参加しなかった方がポイント取得のために参加し、参加者が増えるかもしれない。アプリの使用については、ダウンロードに抵抗がある方が一定数いるので、全員集合のなかで登録方法を教えても良いのではないか。</p> <p>委員) ひたちなか市では、他のアプリを独自で活用しており、東海村でも同じようにやっても良いのではないか。アプリにこだわる必要はなく、ラジオ体操参加者のスタンプカードのように、紙を使用するのも良い。</p> <p>事務局) 委員からの意見にあったとおり、参加者の裾野拡大のため、今年度は「元気アップ！りいばらき」を活用する。全員集合については、登録できるよう準備する。</p> <p>委員) とうかいまるごとウォークラリーについて、チラシはもうできているのか。ウォークラリーの実施範囲については、村内全域ではなく学区別にするなど、規模を小さくすれば高齢者も参加できるため検討してほしい。</p> <p>事務局) 現在スポーツ推進委員と協議して実施内容を検討している。多くの方に参加してもらえるよう、学区ごとに作成できるよう調整する。</p>
--	---

委員) 各学校への送風機設置は、これから夏本番となり熱中症対策にもなるため、学校として非常にありがたい。

東海村は、他自治体と比べ部活動の地域移行が早く感心している。一方で、地域移行を進めるにあたって問題点もある。部活動は今まで学校生活の一環であり、平日休日ともに同じメンバーで活動するため、中学校から新たにスポーツを始めることへのハードルが低かった。しかし、地域移行により休日がクラブ活動となるため、どうしても初心者と経験者との差が出てしまう。中学校からスポーツを始める子には抵抗があり、活動の場がなくなってしまう。地域クラブのあり方を検討しなければ、上位の子たちは活躍できる環境が整うものの、苦手な子は辞めてスポーツをしなくなる状況が生まれる。これからは、どのようにスポーツを好きにさせるかを考えなければならない。

委員) スマイル東海に関わっている立場から、スポーツが苦手な子をどうサポートするかは、我々の使命でもある。子どもたちは学校があるため、夜間運動できる機会を増やそうとスマイル東海では考えている。子どもたちには早いうちからスポーツに触れさせたい。

(2) 第2期計画の推進に向けた関係団体との意見交換について

○ 配付資料の説明…資料2, 3

委員) ホッケーが盛んなまちでも、人口減、こども減によりできなくなっているところもある。境町では、ホッケーチームはないものの、ホッケー場をつくりプロに活用してもらうことでホッケーのまちを推進している。スポーツ推進計画にあるようにスポーツを「する」だけでなく、「みる」、「ささえる」という観点からも良い取り組みである。東海村もホッケーを推進していくにあたっては、ある程度予算をかけないと浸透しないだろう。

委員) ホッケーに対して、キツイ競技というイメージがあり、少しでもそのイメージを軽減できるような工夫が必要である。誰でもできるようにウォーキングホッケーにするなど。

	<p>委員) 小学校の体育の授業で取り入れるのはどうか。ホッケーではないが、神奈川県ではマーチングバンドが盛んで、その理由として小さいころからマーチングバンドに触れる機会が多いことが挙げられる。小さいころから始めれば、大人まで行う人も増えて、競技人口が増える。</p> <p>委員) 体育の授業で行うのは少々ハードルが上がる。指導方法の検討が必要であり、年間計画も変更しなければならない。早くても令和9年度になる。</p> <p>事務局) 今年度は各小学校にプラスチック製のホッケー道具を配る予定がある。使用方法については現在検討中だが、休み時間の使用や将来的には授業での使用を想定している。</p> <p>事務局) 小学1年生から中学3年生までの「とうかいっ子育成プラン」の中にホッケーを入れて学び、体験してもらうことも考えられる。</p> <p>委員) まずは資料のとおり、10月頃にホッケー連盟と意見交換を行い、方向性を決めることとする。</p>
10 今後の予定	<p>ホッケー連盟と意見交換を2回計画(10月頃, 1月頃)。 次回委員会は、2月に開催予定。</p>